

## 益々発展する母校—商学部開設—

学長 西村 晃夫



本学の創立は、一九六四年（昭和39年）でした。それから満二十八年が経過し、解決したり改善せねばならぬことは多くありますが、大学の運営は順調です。これも関係者の皆さん、とりわけ同窓会の順調な発展とご協力のお蔭であると感謝しています。この一年間は、本学にとって大変意味のある時期でした。本来の使命をよりよく発揮するために、大学同窓会が新しく独立組織として敬愛同窓会から分離しました。もとよりお互いの立場や実現すべき理想のための平和裡での話合いの結果です。さらに本学の悲願でありました複学部体制が、一九八九年に外国語学部の増設という形で果され、今年その完成年度を迎えました。六月に行なわれた文部省による実地調査の結果も、設置基準に基づいて大学の使命を十分果たすような運営がなされていると評価され、「努力に対して敬意を表します」という讃辞をえることができました。山下学部長はじめ多くの関係者の方に心か

らお礼を申しあげます。また十八年米の悲願でありました学部改組による商学部の創設も、小嶋学部長はじめ関係者各位の努力によって実現し、意欲的なカリキュラムと学生の身になったコース制の実施によって、着実に成果をあげています。

今後私たちの大学は、いたずらに量的拡大に走るのではなく、中部を代表するすぐれた大学としての地歩を固めるために質的充実にとりくんでいくつもりです。具体的には大学にとって長子ともいえるべき経済学部の充実と学科増、情報教育の発展のためのハード面とソフト面での拡充、時代の要請に応えるような形での大学院の設置などを考えています。大学の持つ社会的な意味と役割は毎年大きくなっていきますし、社会の期待に応えつつおぼなりません。一九九一年七月に施行された大学設置基準の大綱化や大学の自己点検・自己評価の線にそって、本学でもいくつかの委員会をそれぞれのセクションごとに作って、成果をあげるべく努力しています。

こうした時期に間もなく本学は創立三十周年を迎えようとしています。数多くの計画や夢が実現されるべく、日下準備が進められています。大学にとって最大の財産の一つである同窓会にも、私たちは大きな期待を寄せています。これは単なる依存ではなく、相互琢磨を通じての名古屋学院大学の発展と地域社会への貢献のためであります。

## 留学や外国人留学生との交流で国際的な視野を広げる

### ■国際交流センター

海外二十大学と交換協定を結び、学生派遣や外国人留学生の受け入れを中心的に行っているのが「国際交流センター」です。海外への留学制度（長期留学・短期留学）ではアメリカへの短期留学（百数十名）と長期留学と中国への同様の留学制度を行っています。また、海外から本学への留学生も受け入れ、現在「留学生別科」では約三十名が日本語と日本文化の研究を行っています。今後とも、同窓生の方々の「国際交流」へのご支援をお願いします。



## ニューメディアを駆使した最新の語学教育施設

### ■外国語教育研究センター

最新設備のニューメディアを駆使し、外国語教育、研究を展開しているのが「外国語教育研究センター」です。このセンターは、CALLラボ教育（Computer-Assisted Language Learning）の略で、CAI教育により文字英語より音声英語を、「話す」よりも「聞く」ことに重点を置いて、学生の外国語運用能力の向上をはかっています。

当センターでは、英語の集中講座や公開講演会を定期的に開催するほか、実用英語検定試験（英検）も行っています。

